

## 創立130年記念事業

### 「2006専修大学カップ 神奈川県学童軟式野球大会」

専修大学創立130年記念事業の一環として、「2006専修大学カップ 神奈川県学童軟式野球選手権大会」の開会式が8月4日、平塚球場で行われ、各地区の予選を勝ち上がった54チームが元気に入場行進。栄冠を目指し、熱い戦いが始まった。



(主催＝専修大学・神奈川県野球連盟。後援＝神奈川県教育委員会、tvk(テレビ神奈川)、神奈川新聞社。協賛＝川崎信用金庫、(株)モスフードサービス)

▲平塚球場に勢ぞろいした54チームの選手たち(円内は開会のあいさつをする日高義博学長)

今村勝也神奈川県少年野球連盟学童部理事長の大会宣言に続き、大会会長の日高義博学長が「練習の成果を発揮し、チームメートとのきずなを深め、心に残るよき思い出となるように頑張ってください」と激励のあいさつ。続いて川崎市宮前区代表・野川レッドパワーズの鎌田健吾主将が選手宣誓を行った。大会副会長の加藤時太郎神奈川県野球連盟会長のあいさつの後、本学から参加賞が全員に贈呈され、代表して横浜市旭区代表・レッドスネークコルツの藤原涼太郎主将が、大会運営委員長の加藤茂夫経営学部教授(体育部長)から受け取った。

最後に全学応援団チアリーダー部「BLASTS」が、華やかにエールを送り、開会式を盛り上げた。

大会の様子は8月27日(日)、19時から3時間の特別番組としてtvkで放映される。野球部のワンポイントアドバイス講座や、サッカー部、アメリカンフットボール部、エクステンションセンター講座受講生の協力による本学のCMも流される。



▲開会式を盛り上げたチアリーダー「BLASTS」

## 育友会 就職懇談会

### 「シュウカツ」での心構え 多方面からアドバイス

親は最も身近なサポーター

子に“気づき”与えよう

育友会(小川恵三会長)主催の就職懇談会が7月16日、神田キャンパスで開催され、約400人のご父母、学生が出席し、熱心にメモを取る姿が見られた。



前田 正志部長



木村 俊太さん



小川 恵三会長

「次代を生き抜く力を身につけるために」と題して講演したセブンスーズホールディングス(株)代表取締役会長兼社長の恩田英久氏(平4法)は「『活字』に慣れている人間は頭の回転が速いので、専門性の高い書籍や、著名な経営者の書籍を読むことを勧めしてほしい。何をやりたいのか、“気づき”を与えてあげるのが親としてできることでは」とアドバイス。また、「今後は体験を次世代に伝える役割を果たしていきたい」と「次なる目標」を語った。



人事採用の側から、(株)資生堂人事部人材育成グループ・グループリーダーの深澤晶久氏は、社会で重視されるようになったコンピテンシーについて説明した後、「企業はセルフマネジメントのできる人材を求めている。『キャリアデザイン』を描く手助けに、親は最も身近で最良のサポーター。子どもと真正面から向き合うチャンスの夏期休暇中に、就職活動の第一歩の『自己理解』を深めるため、豊かな社会経験を伝え、自己分析のコーチになってあげては」と就職活動における親の役割を提案した。



▲ 学生も交え、真剣に説明を聞く父母のみなさん

学生体験談では、経済学科の木村俊太さん(内定先=日本たばこ産業(株))が「苦手な部分の克服よりも得意分野の強化に重点を置いた。万全の自信をもって『面接』に臨んだことが功を奏したと思う。尊敬する両親が温かく見守ってくれたので、安心して活動することができた」と話し、周囲に多くの支えがあることに気づき、さまざまな人に出会い成長した半年間の「シュウカツ」を振り返った。

前田正志就職部長は、二極化が進む学生の現状から「『就職しない学生』をいかにして減らすか」と本学就職部の今後の課題を話し、内定を得られない学生の特徴、就職活動の流れ、就職支援プログラムを説明した。

## 新企画

### 育友会支部懇談会の感想をメールでお寄せください

支部懇談会の感想をメールで募集しています。さまざまな地域の過多のご意見をお聞きしたいと初めて企画しました。本紙9月号に掲載しきれない場合には、育友会のホームページに掲載させていただきます。

- 字数＝250字程度(本文のみ)
- 掲載予定人数＝15人
- 締切＝9月4日(月)16時
- 送付先＝e-mail  
nsikuyu@acc.senshu-u.ac.jp
- 必須事項＝所属支部名、氏名、住所、電話番号、  
ご子女の学部学年と性別
- お問い合わせ＝広報課  
電話 03(3265)5819



▲『育友』106号発行されました！！